

活動のタイトル

福祉施設における園芸福祉活動

介護老人保健施設ひざし 介護福祉士
酒井 尚美

活動の背景と目的

昨年の春、私の勤める介護老人保健施設にも、開設五年目にしてやっと園芸クラブが発足しました。クラブ発足にあたり職員の中から花が好きというだけで、クラブの担当となりました。

手探りで活動する中、この講座を知り、クラブの充実を図る為、受講しました。岐阜県においては、その後、園芸福祉サポーターとして他施設へ紹介して下さったので、私自身の勉強となると思い、身障者施設にも月に1～2回ほど伺っています。

活動の内容

施設：介護老人保健施設ひざし

利用者数：入所者100名 通所者20名

4月 お花見

5月 夏の花の種まき・菖蒲湯

6月 苺の収穫・菊の苗植え・サツマイモの苗植え・
小学校と交流



7月 苺の苗作り

8月 夏の花の種取り

9月 お月見団子作り・押し花・芝刈り人形

10月 菊の開花・サツマイモの収穫・木の実アート

11月 チュウリップの球根植え・苺の苗植え・文化祭出展

12月 クリスマスリース作り・門松作り

1月 苺の追肥

2月 苺の追肥・小学校と交流

3月 苺の追肥

花の水遣りは、天候に関係なく毎日確認し行う。(室内の鉢花も)



施設：重度身障者施設

岐阜県立サニーヒルズみずなみ

利用者数：50名

月に1～2回程度ボランティアとして参加。その日の作業を利用者の意向に合わせてサポートする。



運営や体制

種が出来る物は種を取ったり、春・秋咲きの花はそのまま種を蒔くと花が絶えない。

球根物を利用すると、繰り返し使える。

人の目に付きやすい所に飾ると、興味のある方からアイデアや教え、種・苗などの寄付がある。育てた花を使って、押し花などの作品を作る。

木の実など身近で集められる物を利用する。



年間の予定を立て、必要な物を洗い出し、代用出来る物がないか考える。

チームを作り、活動内容をチーム内に浸透させてから職員全体に広げる。職員間に園芸の認識が広がることで、協力が得やすくなる。

活動を時々、土日・祭日など面会者の多い日に行い、一緒に参加していただき、家人サイドからも喜びの声を施設に届けていただき、園芸活動の良さを上層部にアピールする。

地域との関わり

ボランティア団体による施設周りの草取りや落ち葉掃き。(庭を含む)

地域小学校の総合授業と合わせて、花の苗植えの交流。

育てた苗を行事等に慰問で来設してくれた保育園へプレゼント。



これまで苦労した点や今後の課題

花の管理が一人では無理があり、職員を当番制にして御利用者の方々と水遣りを行ったが、水の遣り方もまちまちで枯らしてしまった。

水遣りの仕方・花殻摘みの仕方を理由も含めてマニュアルを作成し職員誰もが同じように出来るよう、出来るまで継続して声掛けをした。



今後は、現在の活動を継続していくと共に、ご利用者の方々の声に答えられるような体制作りや予算の確保をすると共に、私自身、初級園芸福祉士として日々、学ばなければいけないと思います。

又、園芸福祉士という資格がもっと知られると活動の場が得られると共に活動がしやすくなると思います。

その他

岐阜県におけるサポーター制度は、ボランティアであるから、子供達や知人を気軽に誘い、一緒に活動でき、園芸福祉を広げる事が出来る。

(受け入れ先の施設の了承は必要と思われる)

